

# 令和6年度 やまがた森林ノミクス県民会議 委員意見（概要）

日 時:令和6年10月15日(火)10:00~11:45

場 所:山形県建設会館 大会議室

## 〔川上関係委員の意見〕

- ・森林は保水機能による災害の軽減、脱炭素社会の実現や花粉症対策等において大きく期待されており、再造林や除伐等に加え間伐に係る予算も充実させることが必要になってくる。
- ・自然災害からの復旧に係る支援について、今後も意欲を持って林業を続けられるような内容の検討をお願いしたい。
- ・森林整備の促進や森林所有者への還元など「やまがた森林ノミクス」の加速化に向けて、原木の酒田港からの輸出の取組みは重要だと考えており、県のバックアップをお願いしたい。
- ・「やまがた森林ノミクス」の政策や世代交代により林業を担う若い人材が増えてきた。
- ・自然災害や物価高騰の影響がある中でも将来的に継続して林業を経営できるよう支援をお願いしたい。

## 〔川中関係委員の意見〕

- ・「やまがた森林ノミクス」を加速させるためにも、川中から川下へ県産認証材「やまがたの木」等の地域材の流通量を増やしていくことが重要である。
- ・改正クリーンウッド法や改正建築基準法の運用が来年度から開始されるなど、木材産業を巡る状況はめまぐるしく変化しているため、木材産業の強化を柱とする具体的なプロジェクトの創設を強く期待する。
- ・現在取り組んでいる木材の乾燥施設や保管施設整備についてはより一層推進していただきたい。
- ・広葉樹については、戦後伐採されてからだいぶ成長したが、小径木が多く製材歩留まりが悪いという問題がある。利用はもう少し待ってからの方がいいのではないかと考えている。

## 〔川下関係委員の意見〕

- ・若い人材が不足している中で、一層A I等を活用していくような林業が望まれる。
- ・評価検証がすごく大事なことだと感じている。県民が収めた税金がどのように使われて、成果をあげているのかを検証し、説明していくことが必要である。
- ・建築においてスギがメインの県産材は、構造材として使うにはあまり強度がないため、いろいろな可能性を考えていく中で、例えばマツやヒノキを植える、広葉樹を使う等も検討してもらいたい。

## 〔県民、行政、有識者関係委員の意見〕

- ・森林経営管理制度は高齢化が進む中、管理の行き届かない山林の間伐や主伐等を市町村や民間業者をお願いできるありがたい制度である。
- ・林業という職業の魅力的な場面を実際に子供たちに見せることはとても大事なこと。
- ・川上に何か問題が起きた場合、木製品を購入する消費者や山から流れてくる水で暮らす人たちなど川下への影響もあるので、森林が適切に管理されているか見ていかなければいけない。
- ・県の取組みの結果だけを公表しても一般の方には分かりにくいことがあるので、もう少し説明する

場が必要なのではないか。

- ・現在の山形県内における、森林に関するカーボンクレジットの取組状況がどうなっているのか知りたい。カーボンクレジットを活用して山村が潤うような仕組みを考えて欲しい。
- ・7月の大雨被害の影響や全国的なおが屑不足、雑菌問題等によりキノコの生産量が減少してしまうのではないかと不安がある。
- ・「やまがた森林ノミクス」の取組みを評価する場合、個別の政策ごとに指標がどのように改善したのかといったことを客観的に測定していくことが重要になる。
- ・森林環境譲与税については、導入されてから5年になり、各市町村とも具体的に事業を展開しているように見える。その一方で、基金としての積み立てが大半の自治体があるが、市町村間の取組みに対する温度差をどう埋めるのか、県の考えや県からのアドバイスの現状を知りたい。
- ・森林環境譲与税とやまがた緑環境税について、二重課税になっていないかという批判がある。両者の棲み分けについて、見える化の工夫はどうなっているのか。また、やまがた緑環境税の取組みのうち「みどり豊かな森林環境づくり推進事業」の市町村提案型について、森林環境譲与税との整理を知りたい。
- ・災害の増加傾向を踏まえ、路網整備は県民が安全に暮らすための重要な政策だと考えられるため、全市町村で路網整備を進めていくランドデザインがあってもいいのではないか。
- ・林木育種において山形県は、豪雪地帯という地域性を踏まえたスギ品種の開発が全国でもトップレベルである。今後も育種に限らず地域性を踏まえた山形ならではの取組みに期待したい。
- ・国有林におけるスマート林業の取組みについて、民間企業等の先進的な取組みを参考にしつつ、国と都道府県とが日頃から連携を深めていくことが重要になってくる。
- ・健全な森づくりと木材の循環利用を通じて、良い自然環境が醸成され、県民の安心安全な生活環境の確保に繋がっている。そういうことを県民一人一人が理解していけるような取組みが重要である。
- ・県民会議の委員の意見を踏まえてきめ細かな政策を効率的・効果的に執行していくことが非常に重要になってくる。

#### 〔議長（知事）のまとめ〕

「やまがた森林ノミクス」の取組みは、先人から受け継いできた森林の多様な資源、魅力を積極的に活用して、活力ある社会を目指し、健全な姿で次の世代につないでいくもの。

これらの取組みは、SDGsの目標達成に向けて、さらには2050年までに二酸化炭素排出の実質ゼロを目指す「ゼロカーボンやまがた2050」の実現にも大きく寄与する。

各委員のからいただいた意見は、「やまがた森林ノミクス」の今後の施策に役立てていくので、今後とも皆さんと推進していく。